

と頭 京大生のかばんの中身

企画を考えるにあたって、少し考えました。

『らいふすてーじ』で散々ネタにしてきたけれど、京大生って「1限に出られない」とか「降ってくる単位を受け止める」だけではないだろうと。一人一人、個性を持ってがんばっているはずだ、と。そんな京大生と向かい合いたくて、他の編集部員に探してもらいました。条件は「かばんに面白いものが入っている人」。かばんの中身を見せてもらいながら、その人のこだわりを語ってもらいました。

こうしてインタビューすることになった、3人の京大生。彼らのかばん、そして頭の中からは一体何が飛び出すのか……。 (椿井)



農学部 3回生 高本悠介さん

「24時間自習室で寝泊まりしていたら、荷物がどんどん増えちゃって……」

テレビ番組でも取材を受けたことがあるという高本さん。その4つの大きな荷物の中身は一体……？ 新しくなったルネでお話を伺った。

—大きな荷物ですが、中身は？

荷物を出さないままでしたら、いつの間にか増えてしまっただけでなく、**去年はもっと多くて、量ったら20数キロありました。**実験の授業で使うテキストとか、買ったけど全然使ってない本とかがたくさん入ってます。春休みにフィリピンに行ったときに買った笛とかフィリピン国旗とか、パスポートとかも入ってますね。あ、うずらの卵を孵していたときのカイロも入れっぱなしですね……。 (笑)



▲かばんはなんと4つ



▲どんどん出てきて

—うずらの卵を孵したのは趣味で？

そうですね、趣味です。友だちにももらった植物の種と、それを植えるための土も入ってます。あと寮にはイソギンチャクやタツノオトシゴもいますね。**生物全般に興味があって、1回生のころから24時間自習室で勉強して寝泊まりをしていたんです。荷物もそれで増えちゃって、**下宿にはほとんどシャワーを浴びに帰るだけになっていました。だったらもう下宿はいらないんじゃないかと思って、2回生から熊野寮に引越しました。最近はわりと寮に帰るようになりましたけどね。

—ところでこのくまのぬいぐるみは？

そう、これについて話したかったんです。「京大わらしべ」(<http://www.facebook.com/warashibe.kyodai>) というプロジェクトでまわってきたんです。渡された人は「京大わらしべ」のページ



／ かわいいだけじゃないんだぞ

に自己紹介することになっているんです。今まで書いている人たちがすごい人ばかりで、気後れしちゃいます……。

—最後に、将来の野望などあれば

もっといろんな動物や植物を育てたいですね。最近京大でもいろんな動物を飼っている人がいるみたいなので、**僕も負けずに七面鳥とかダチョウを孵化させて、みんなで食べたりしてみたいです！**

—ありがとうございました



↑謎の種

←サインだらけのPC

はみだし
すてーじ

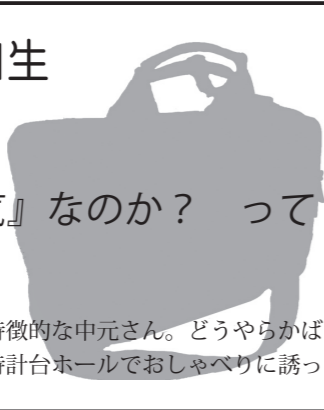
食堂の混雑が解消されました☆
⇒私の時間割を持ってすれば、4月始めから食堂はガラガラ！

(工・3 雨男)
(だって3限あいてるもん；編)

総合人間学部 2回生 中元 洸太さん

「私たちは本当に『正気』なのか？ って思うんです」

赤と黒で統一されたファッションが特徴的な中元さん。どうやらかばんの中もミステリアスらしい、と聞いて時計台ホールでおしゃべりに誘った。



——タロットカードが入っていますが、普段から持ち歩いているんですか？

そうですね、たまに占ってほしいという人がいるので。タロットはカードがそれぞれ人間の性質を表していて、それが面白いんですね。だからタロットって、占ってもはっきり未来のことがわかるわけではなくて、だからこそよく当たるんです。カードが人間の性質を表しているんだから、凶星なら「当たってる！」と思うし、そうでなかったら「気づいてないだけで、そんな性質が自分にはあるのかも」って思うでしょう。こう言うと身も蓋もないですけど(笑)。だから占われる側は、何かの指針として受け取るくらいのつもりでいいと思いますね。



▲中学生の頃から愛用しているというタロットカード

——赤と黒のものばかり身につけているのには理由があるんですか？

赤は血の色で、黒は闇の色ですよ。どちらも今は忌み嫌われていますが、近代以前は必ずしもそうじゃなかったんじゃないか。そんな思いからきています。

——入っている本を見るに、興味があるのは哲学といったところでしょうか？



▲スタンダード『恋愛論』とイギリスの哲学者ヒュームについての本

そうですね。もっと広く言えば、人間の心理全体に興味があります。たとえばヒトラーや昔の拷問は、残虐で狂っているとよく言われますけど、一方でそういう話を、私たちはどこか享樂的に消費してはいないでしょうか？ **そういう私たちは狂ってないんでしょうか？**「正気」って一体なんなのか。文化によって違いがあると思いますが、ある程度普遍的に捉えてみたいです。

恋愛にしても、古代ギリシャの頃から狂気として捉えられてきているけれど、精神異常と扱われるよりは何か素敵なものとして、ポジティブに受け入れられていますよね。それはなぜなのか。スタンダードの『恋愛論』はそんな疑問を持ったので読み始めました。

実験などの拘束時間がない分、文系は一人で本を読むわけですけど、これが結構つらかったりもしますね。

——総合人間学部を選んだ理由などありますか？

中学生の時から哲学に興味があったんですけど、やっぱり宗教とか文化とか、**いろんな側面から一つの問題を扱いたい**と思っていて、それで総人にしました。総人は主専攻と副専攻の2つがあるので、何かに集中するにはエネルギーが必要で、うまくやらないと何を勉強しているのかわからなくなってしまいそうですけどね。

——将来の野望など、お聞かせください
小学生の時は世界征服が夢でした(笑)。今は自分のために、今興味のあることの研究を続けたいと思っています。

それ以外には、こうやって人とおしゃべりするのが好きなので、喫茶店でお茶を飲んでお話するための「お茶会」サークルを作りたいですね。

——ありがとうございました



▲愛用の懐中時計

(経・4 ポンポン)
(でもまだ生えてる人もいますよね；編)

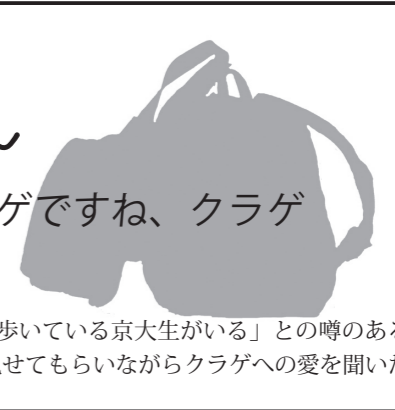
はみだし
すてーじ

私のあたまにつのがあった。突き当たって折れてわかった。
⇒私ののは昔から、がしがしやられていたので大学に入る前に折れていました。

農学部 2回生 山守 瑠奈さん

「でもやっぱりクラゲですね、クラゲですよ！」

「かばんにクラゲを入れて持ち歩いている京大生がいる」との噂のある山守さん。中央食堂でかばんを見せてもらいながらクラゲへの愛を聞いた。



——クラゲを持ち歩いていると聞いたのですが……

はい。とてもかわいいので、時々クリュー瓶に入れて持ち歩いています。他にもシマドジョウやサンショウウオも飼っています。植物も好きで、外で見つけた植物を持って帰って同定するためのビニール袋はいつも持っています。標本にしたり、家で生けたりして楽しんでいます。



▲持ち歩いているというクラゲ。瓶の大きさは約3センチ

——持ち歩くほどクラゲがお好きなんですね

はい、大好きです。中学生の時に『クラゲのふしぎ』という本を読んで、それ以来ずっと。

クラゲは一生の間に何度か姿を変えるんですけど、そのサイクルがまだ解明されていない種類もあります。またクラゲの

からだはとても弱くて、標本を作れないんです。DNAの抽出も難しく、ゲノムもまだまだ読み取られていないそうです。

一方で、これはある研究者の方が講演会で言われたことなんですけど、「**クラゲはとどめをさすことができない**」のです。からだ全体が脳みそや心臓のように働きますから、急所が無いのです。とても面白いですよね。**クラゲは本当に面白い生き物で、一生研究しても興味が尽きそうにないです。**

あと、何よりきれいです。クラゲの写真はどれもとても美しいので、写真集を集めていて、よく眺めています。



▲お気に入りのクラゲ写真集と常備しているという植物採集用のビニール袋

——ご自身で研究もされているとか？

高校生の時はクラゲのホルモンの研究をして、発表しました。高校に恒温器などの設備がそろっていたので、クラゲを飼育することができたのです。高3の受験期前まで、学校の生物室に入り浸って研究を続けていました。

今はクラゲの分類について勉強したくて、**舞鶴や白浜にある京大の研究所によく行きます。**舞鶴は魚介がおいしいし、白浜は黒潮のおかげで面白いものが漂着するし、どちらも素晴らしい所ですよ。



▲「クラゲノート」には飼育記や読んだ論文について書かれている

——京大を目指した理由は？

始めは海洋大学に行こうと思っていたのですが、高3で生物オリンピックに出て、話の合う人にたくさん出会えたんです。その人たちの多くは東大・京大志望だったので、京大にはこんなに面白い人がいるんだ、と思って。

——将来の夢についてお聞かせください
研究できる所に行って、クラゲなり海洋無脊椎動物なりの研究がしたいです。うーん、**でもやっぱりクラゲですね、クラゲですよ！**

——ありがとうございました

はみだし
すてーじ

フランスの駅の窓口で「Can I speak in English?」と聞いたら「No」と返された時の困惑とかけて……
⇒こんな投稿への返事を考えている私の苦難と解く。

(理・院 鶯)
(そのころは：どうしようもありませんでした；編)